



東海自動車工業株式会社

2017年度 環境活動レポート

(2017年4月～2018年3月)



発行

2018年9月

確認	作成
望月	小泉

東海自動車工業株式会社

環境方針

<環境理念>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、自動車整備・販売等の事業活動において、持続可能な人にやさしく、地球にやさしい社会の実現を目指すことにより、環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

<環境保全への行動指針>

1. 地球温暖化防止のため、二酸化炭素の削減に取り組みます。
自社における電力・燃料消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
 2. 資源の有効利用のため、廃棄物の削減に取り組みます。
 - ① 事務所での一般廃棄物の削減と分別廃棄を可能な限り努めます。
 - ② 自動車整備業務に伴う産業廃棄物について、分別回収による資源の有効利用に努めます。
 3. 水資源の有効利用のため、節水に取り組みます。
 - ① 自動車整備業務の洗車・工場清掃時に使用する水の節水に努めます。
 - ② 事務所での節水に努めます。
 4. 地球環境保全のため、自動車整備において環境に配慮した整備に取り組みます。
 5. 循環型社会推進のため、グリーン購入やグリーン調達を推進します。
 6. P R T R法を遵守し、化学物質の管理を行います。
- これらについて、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。
7. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
 8. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：2009年3月31日

改定日：2015年5月20日

東海自動車工業株式会社
代表取締役社長

長野 高幸

□登録事業所の概要

(1) **事業所名及び代表者名**

東海自動車工業株式会社
代表取締役社長 長野 高幸

(2) **所在地**

本社及び静岡支店:静岡県静岡市駿河区国吉田二丁目1番11号 2010年4月9日より認証・登録

TEL 054-263-1122

FAX 054-263-8523

藤枝支店: 静岡県藤枝市南新屋239 2014年4月9日より認証・登録

TEL 054-641-2525

FAX 054-644-8775

吉田支店: 静岡県榛原郡吉田町住吉780-1 2014年4月9日より認証・登録

TEL 0548-32-1391

FAX 0548-32-2374

(3) **環境管理責任者氏名及び担当者連絡先**

責任者 管理本部 望月隆弘 TEL: 054-263-1122

担当者 総務部 小泉 浩 TEL: 054-263-1122

(4) **事業内容(認証・登録の範囲)**

自動車の整備加工・販売・関連商品販売・賃貸・管理請負, 保険代理店業務並びに電機機械器具・通信機械器具・事務用機械器具の販売修理業

(5) **事業の規模**

売上高 34億円 (2017年4月～2018年3月)

	本社	静岡支店	藤枝支店	吉田支店	合計
従業員	35名	83名	43名	25名	186名
延べ床面積	4,053㎡		2,671㎡	2,199㎡	8,923㎡

(6) **事業年度** 当年4月～翌年3月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 東海自動車工業株式会社

対象組織: 本社・静岡支店 (静岡地区)

藤枝支店 (藤枝地区)

吉田支店 (吉田地区)

活動: 自動車の整備加工・販売・関連商品販売・賃貸・管理請負, 保険代理店業務並びに電機機械器具・通信機械器具・事務用機械器具の販売修理業

□主な環境負荷の実績

静岡地区(本社・静岡支店)

電力co2排出係数=0.482

項目	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	386,405	389,628	369,120	352,155	352,953
廃棄物排出量	kg/年	154,390	180,830	181,250	216,460	228,250
一般廃棄物量排出量	kg/年	2,210	2,520	2,220	2,220	1,440
産業廃棄物排出量	kg/年	152,180	178,310	179,030	214,240	226,810
総排水量	m ³ /年	4,671	4,264	4,434	4,241	4,121

* 2010年4月9日より適用対象

藤枝地区(藤枝支店)

電力co2排出係数=0.482

項目	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	188,887	182,313	172,745	170,954	172,475
廃棄物排出量	kg/年	58	53	74	48	81
一般廃棄物量排出量	kg/年	0	0	0	0	0
産業廃棄物排出量	kg/年	58	53	74	48	81
総排水量	m ³ /年	1,401	1,539	1,310	1,000	1,137

* 2014年4月9日より適用対象

吉田地区(吉田支店)

電力co2排出係数=0.482

項目	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	74,300	72,242	79,721	75,488	76,561
廃棄物排出量	kg/年	1,588	1,743	2,204	1,897	2,059
一般廃棄物量排出量	kg/年	0	0	0	0	0
産業廃棄物排出量	kg/年	1,588	1,743	2,204	1,897	2,059
総排水量	m ³ /年	107	119	111	110	73

* 2014年4月9日より適用対象

静岡地区(本社・静岡支店)

環境目標及びその実績

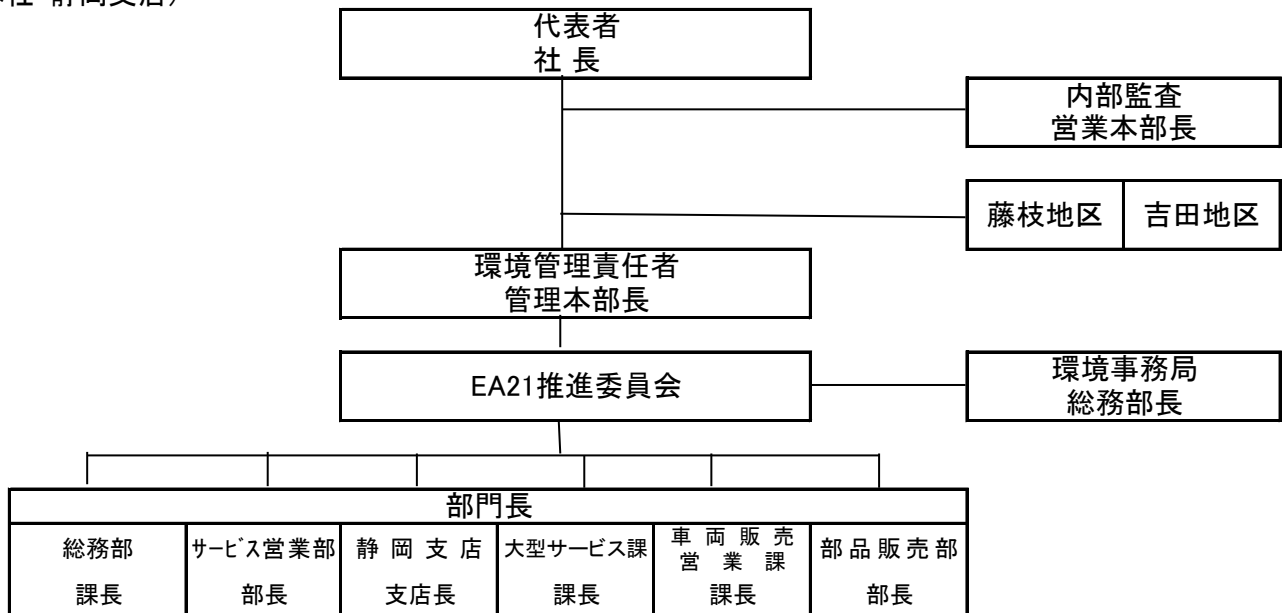
項目		2015年度	2016年度	2017年度		2018年度	2019年度
		(実績) 基準年度	(実績) 新基準	(目標) 基準年度比	(実績) 未達/達成	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 排出係数換算 2015年度以降 0.482	200,821	194,792	192,844	191,537	191,870	190,896
			新基準	99.0%	目標達成	98.5%	98.0%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	168,299	157,363	155,789	161,416	155,003	154,216
		100%	新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	369,120	352,155	348,633	352,953	346,873	345,112
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
一般廃棄物の削減	(kg/年)	2,220	2,220	2,209	1,440	2,198	2,187
			新基準	99.5%	目標達成	99.0%	98.5%
産業廃棄物の削減	(kg/年)	179,030	214,240	213,169	226,810	212,098	211,026
			新基準	99.5%	目標未達	99.0%	98.5%
節水	(m ³ /年)	4,434	4,241	4,220	4,121	4,199	4,177
		100%	新基準	99.5%	目標達成	99.0%	98.5%
環境配慮の整備・製品の販売促進 E C Oバッテリー	(個/年)	356	649	714	973	746	779
			新基準	110.0%	目標達成	115.0%	120.0%
グリーン購入	(千円)	11,496	12,796	12,924	12,760	13,052	13,180
			新基準	101.0%	目標未達	102.0%	103.0%
化学物質の適正管理	(kg/年)	455.4	445.4	441.0	734.7	400.9	356.3
			新基準	99.0%	目標未達	90.0%	80.0%

(注) 二酸化炭素にLPG, 灯油は入っていません。

今年度は、社長からの指示により、「業務改善プロジェクトチーム」を立ち上げ業務改善効率化に取り組んできた。主な取組として作業手順の標準化による作業効率の向上を目指し、12ヶ月点検作業手順を改めて確立することができた。その他、取組として時間外労働の削減を目指し、管理部門と営業部門の連携強化を図り削減に努めてきた。また、省エネ機器の導入をほぼ計画どおり進めてきたことで電力の削減目標は達成することができた。しかしながら、燃料削減においてはドライブレコーダーを導入し、エコドライブ・安全運転教育指導を実施してきたが燃料削減・事故削減に至らず課題を残す結果となった。また作業廃棄物の削減は作業内容の変化に伴う増加により目標未達となったがエコバッテリーの拡販は、商品知識や販売力の強化、販売ツールの作成・活用により目標を大幅に上回る結果となった。次年度は標準作業手順の他支店への展開や、その他各地区の成功事例を活かし全地区の取組改善を図っていく。

東 海 自 動 車 工 業 株 式 会 社 環 境 経 営 シ ス テ ム 組 織 図

静岡地区(本社・静岡支店)



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を承認。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者 (管理本部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。、 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を準備。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告・ ・環境活動レポートの確認。
環境事務局 (総務部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長 (各部の課長・部長・支店長)	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
担当責任者(係長・作業主任者)	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

口環境活動の取り組み計画と評価

静岡地区（本社・静岡支店）

取り組み計画	次年度取組 (継続=○取 止め=×)	項目別 担当 責任者	評価（結果と次年度の取り組み内容）
電力の削減		目標達成	
・室内エアコンは、夏28℃、冬20℃を原則とする	○	・各部門長	依然として空調温度が守られていない部署がある。作業により設定温度が現状にあわない。次年度は業務に応じて温度設定を変えるなど実情にあったルールを設定し空調効果を高める工夫をしていく。
・電気器具の差替は省エネタイプの機器の導入	○	・各部門長	昨年よりエアコンを省エネタイプへ工場照明をLED、無電極電球への差替えを実施、2年続けて削減目標達成。（対基準年度△3,255kg-co2）次年度も継続実施していく。
・クールビズ・ウオームビズ運動 (9月通年輕装化に変更)	○	・総務課長	通年輕装化を導入し体感温度の改善を図ってきた。次年度も通年輕装化を継続し、その他空調効果の工夫を図っていく。
・昼休み未使用時の消灯の徹底	○	・各部門長	昼休み未使用時の消灯において基準が曖昧で共通認識がない。次年度は基準を明確化していく。
・ノー残業デーの実施	○	・各部門長	部署別で日を決めて実施して来たが、繁忙期や業務形態により守られていない。次年度は部署毎業務別で業務ローテーションを加味し再設定をしていく。（最低月1度は実施）
【総労働時間の削減】			
・作業手順の標準化による作業効率向上 ・工程管理精度の向上 (受入～納車まで一貫管理)	○	・静岡支店 支店長	昨年より各整備士、作業別の作業時間を計測、その平均作業時間を割り出し個々の作業の見直し指導をするなど、スキルUPによる効率化を図ってきた。更に今年度は、業務改善プロジェクトを立ち上げ活動してきた結果、12ヶ月点検における作業手順書を作成し作業の標準化を図ることができた。次年度は他作業の作業手順も策定し標準化、作業効率改善を図っていく。
・管理部門と営業部門の連携強化 (従業員との面談等による情報収集分析→営業部門への助言指導) ・全従業員の年間教育の実施	○	・総務課長	部門間の連携強化を図る為、業務過多者への面談、上司への指導・助言を実施し、業務分担の見直しや人事異動を実施した。また、5Sセミナーやマネジメント研修をつうじ従業員の個々のスキルUPを図ってきた。次年度も年間教育計画に沿って従業員の意識改善を図る。また、勤怠管理においてはシステムを導入し、リアルタイムで数値を把握し早期問題は正に努めていく。
自動車燃料の削減		目標未達	
・ドライブレコーダーの装着・運転指導	○	・部品販売部長	営業車両にドライブレコーダーを装着、安全運転指導を実施し、安全運転意識の向上による燃費向上と事故削減に努めたが、事故発生件数を抑えることはできず。次年度は通信型ドライブレコーダーを導入してより詳細な情報を収集し、きめ細やかな指導により削減を図る。
・エコカーの導入	○	・各部門長	導入車両のエコカーへの差替えは徹底されている。以降も継続実施をすることで改善を図っていく。また、社外への働き掛けにより環境活動と事業収益とが直結した活動にしていく。
・アイドリングストップの励行	○	・各部門長	
・社有車・代車燃料の管理	○	・各部門長	集計結果を出し報告はできているが、従業員への個々の指導が不十分な部署がある。次年度は各部門長が情報を従業員に共有し意識改善を図っていく。

一般廃棄物の削減			目標達成
・裏紙使用、ミスコピーの防止	○	・各部門長	今年度は、会議資料の集約化による配布資料の削減が図れた。課題として事前の情報共有手段をデータで行うことが出来ていない。次年度はデータによる情報共有できる体制を整え、不要な書類作成をさらに減らしていく。古紙の分別においては、自社で再利用したりトリクルの活用により成果がでている。次年度も継続実施していく。
・分別による古紙のリサイクル化	○	・各部門長	
・会議資料の削減	○	・各部門長	
・社内伝達メール使用推進	○	・各部門長	
産業廃棄物の削減			目標未達成
・ウエス、廃グリースなどの排出削減（使用済みウエスの分別再利用）	○	・静岡支店支店長 ・大型サービス課長	ウエス、プレーキクリーナーの削減意識は高まっている。次年度も継続していく。各従業員の分別回収の意識があり、事故修理作業は減少傾向にあるも、大型整備において重整備の増加に伴い廃棄物が増加してしまった。次年度は業務内容の変化による増加は止む無いが、基本的取組としてリサイクル部品の有効活用と再生を進めていく。引き続き、販売ツールを活用し、お客様理解のもと斡旋を進めまていく。また、分別回収に力を入れ再資源化を推進していく。
・分別回収の推進（3Rの推進）	○		
・リサイクル先の開拓	○	・部品販売部部長	
節水			目標達成
・節水の呼びかけ	○	・各部門長	今年度も日々の取組として、洗濯機使用の際の水の垂れ流しをしない、させない節水活動を続けてきた。節水型門型洗濯機を導入したことは大きな達成要因となっている。次年度もその他洗浄機など導入の際、節水型の機器を導入していく。また、水道管の老朽化は全支店共通の課題であり、漏水による被害を最小減に防ぐ為、水量計の定期測定を継続し異常値の早期発見に努めていく。
・節水弁の取り付け	○	・各部門長	
・水弁取替時に自動水弁を検討する	○	・各部門長	
・洗車、工場清掃時の節水	○	・静岡支店支店長 ・大型サービス課長 ・車両販売営業課長	
ECOバッテリーの販売			目標達成
・パンフレットの作成	○	・部品販売部部長	今年度も前年度同様、新商品の勉強会を実施、正しい商品知識の基、お客様へ正しい情報の提供による販売推奨を推し進め、目標を大幅に超える実績を出すことができた。他支店への展開はできてきたが、結果は今一つであった。次年度もお客様への「ちゃんと買い」提案を推進していく。
・客先へのPR	○	・部品販売部部長	
・ホームページへの掲載	○	・部品販売部部長	
・車検点検時アピール	○	・静岡支店支店長	
グリーン購入			目標未達
・エコマーク商品から購入する	○	・静岡支店支店長	今年度も推奨販売を継続実施してきた。各種サービスの推奨販売の際、お客様理解のもと販売することができた。また良質な中古部品の入手経路の拡充により安定供給ができています。残念ながらお客様の意向が最優先されることから目標には至っていない。方向性・行動は変更することなく、次年度も継続して良い品をより安価に提供していく。
・中古部品購入額を集計指標する	○	・総務部課長	
化学物質の適正管理			目標未達
・PRTR法の遵守	○	・静岡支店支店長	昨年度は水性塗料への移行を進めてきた結果、大幅な削減を実現することが出来、継続していくこととしたが、今期ブースの不具合や新規ブースの導入も遅れ、水性化への取組ができず目標未達となる。次年度は新規にブースを導入し水性化を進めていく。
・PRTR法に係る化学物質の実績集計	○	・大型サービス営業課長	
・継続的な水性塗料導入による削減	○		

※各部門長＝各部門の部課長または支店長

藤枝地区(藤枝支店)

□環境目標及びその実績

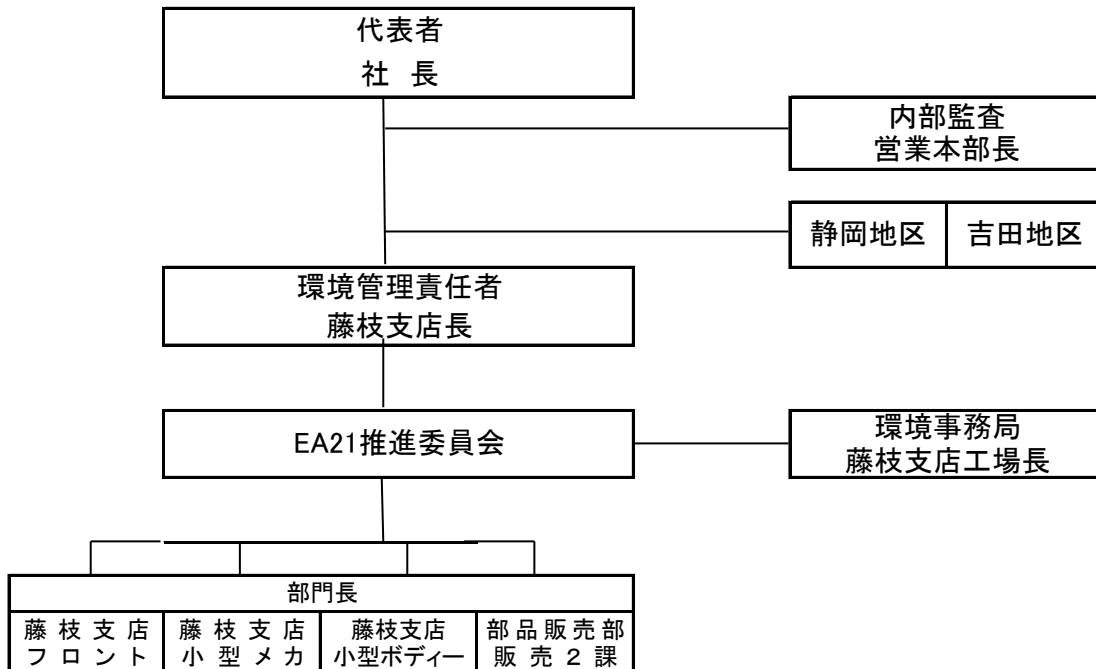
項目		2015年度	2016年度	2017年度		2018年度	2019年度
		(実績) 基準年度	(実績) 新基準	(目標) 基準年度比	(実績) 未達/達成	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 排出係数換算 2015年度0.482	71,166	7,811	71,093	72,067	70,734	70,375
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	101,579	99,143	98,152	100,408	97,656	97,160
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	172,745	106,954	169,245	172,475	168,390	167,535
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
産業廃棄物の削減	(kg/年)	74.0	48.3	47.8	81.0	47.6	47.3
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
節水	(m ³ /年)	1,310	1,000	990	1,137	958	980
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
環境配慮の整備・製品の販売促進 ECOバッテリー	(個/年)		256	282	353	294	307
			新基準	110.0%	目標達成	115.0%	120.0%
グリーン購入	(千円)	10,356	12,099	12,220	10,242	12,341	12,462
			新基準	101.0%	目標未達	102.0%	103.0%
化学物質の適正管理	(kg/年)	95.8	25.6	25.3	12.8	23.0	20.5
			新基準	99.0%	目標達積	90.0%	80.0%

(注) 二酸化炭素にLPG, 灯油は入っていません。 ECOバッテリーの拡販は今期より取組

環境活動への意識は高まりつつあるが、電力・燃料使用量において目標未達となった。要因としては、「①業務の増加に伴う時間外作業の増加。」「②設備のエコ商品への差替えが進んでいない。」などがあげられる。次年度は静岡支店同様作業時間管理の見直し、作業の標準化による作業効率の向上に努めいく。また、設備において、計画的導入を押し量っていく。ECOバッテリー拡販は目標達成継続的取組をしていく。グリーン購入は増加傾向にあり、今後も中古部品の推奨をしていく。課題は一般ユーザーへの拡販体制の構築であり、ECOバッテリー同様販売担当への教育が必要とされる。化学物質の適正管理においては、特定化学物質を含まないエコ塗料に切り替えることで、使用量を大幅に削減することができた。水道水の使用量について、漏水事故による被害を最小限に抑える為、検針時以外に自ら計量メーターを確認することで早期発見に努めてき今期は地下水ポンプ故障が要因となり目標未達。

東海自動車工業株式会社 環境経営システム組織図

藤枝地区(藤枝支店)



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を承認。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を準備。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告・ ・環境活動レポートの確認。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

口環境活動の取り組み計画と評価

藤枝地区（藤枝支店）

取り組み計画	次年度取組 (継続=○取 止め=×)	項目別 担当 責任者	評価（結果と次年度の取り組み内容）
電力の削減			
・室内エアコンは、夏28℃、冬20℃を原則とする	○	・藤枝支店工場長	目標未達 対前年比売上107%増、仕事量に伴う作業時間の増加による影響が大きいく目標未達となる。異動により生産性の一時的低下も要因である。 次年度は標準作業手順導入により作業効率向上と入庫枠の見直し、需要と処理能力のバランスをコントロールし総労働時間の短縮を図ることで節電を図る。
・電気器具の買換時には省エネタイプの機器の導入	○	・藤枝支店工場長	
・クールビズ・ウォームビズ運動（9月通年輕装化に変更）	○	・藤枝支店工場長	
・昼休みや未使用時の消灯	○	・藤枝支店工場長	
・「節電」ステッカーによる節電意識の醸成	○	・藤枝支店工場長	
・作業手順に標準化による作業効率向上 ・工程管理精度の向上（受入～納車まで一貫管理）	○	・藤枝支店 小型メカ	
自動車燃料の削減			
・徹底したメンテナンスの実施と最適な部品選択による車両性能の維持	○	・各部門長	目標未達 作年度はドライブレコーダー装着による安全意識の向上を図るなど、燃費向上への取組を実施し結果が出ていたため、引き続き取組んできたが目標未達となる。また、計画どおり営業車両差し替えの際、中古車導入から燃費性能に優れたエコカーの導入を実施したことで2月以降改善傾向にある。次年度も取組自体の方向性は変更せず継続的取組をしていく。
・燃費計測実績を基に数値が低い営業車両から差替えを実施→エコカー導入。	○	・各部門長	
・ドライブレコーダーによる運転挙動分析→従業員教育指導	○	・部品販売販売2課長	
産業廃棄物の削減			
・ウエス、廃グリースなどの排出削減	○	・藤枝支店フロント	目標未達 取引会社との連携を図り、3R活動を推進してきたが、仕事量の増加に伴い目標未達となる。次年度も再資源化と再利用化に努め、リサイクル利率の向上を図っていく。
・使用済みウエスの分別再利用	○	・藤枝支店フロント	
・開拓したリサイクル先の活用	○	・藤枝支店フロント	
・分別回収のされなる推進（3Rの推進）	○	・藤枝支店フロント	
節水			
・洗車・工場清掃時に使用する水の節約	○	・藤枝支店小型ボディー	目標未達 施設の老朽化に伴い水道管の老朽化も進み、漏水事故の可能性が高く、対策として定期検針時以外に自主検査を実施してきた。また、社員の取組意識の向上から洗車や工場清掃時に使用する水の節約に対する取組も継続してきたことで、上期は計画目標を達成していたが、地下水ポンプが故障した為使用量の増加となり目標未達。次年度も地道な取組ではあるが継続的に実施していく。
・漏水防止策の実施	○	・藤枝支店小型ボディー	
E C Oバッテリーの販売			
・製品製造メーカーからのデータ収集活用	○	・部品販売2課長	目標達成 今年度から販売部支援の下、全支店でエコバッテリーの推奨販売をしていくこととした。結果として目標達成することができた。次年度も継続実施していく。
・新商品講習会の実施による販売力の強化	○	・部品販売2課長	
・販売ツールの作成	○	・部品販売2課長	
・車検点検入庫時推奨販売	○	・藤枝支店フロント	
グリーン購入			
・リサイクル商品カタログの作成	○	・部品販売2課長	目標未達 お客様の了解のもと、きちんと説明した上で販売してきた結果目標未達ではあったが、お客様からのお褒めのハガキが多数寄せられた。お客様に対しても環境に対しても優しい取組であり、次年度も継続的に取組んでいく。
・優良商品に取扱による信頼性の向上	○	・部品販売2課長	
・販売時の商品説明の徹底	○	・藤枝支店フロント	
化学物質の適正管理			
・PRTR法の遵守、化学物質使用量の削減	○	・藤枝支店支店長	目標達成 継続的にエコ塗料への移行を進めてきた結果、大幅な削減を実現することが出来た。作業員の健康のためにも次年度も継続していく。
・エコ塗料の導入・切替え	○	・藤枝支店支店長	
・PRTR法に係る化学物質の現状調査	○	・藤枝支店支店長	

※E C Oバッテリーの推奨販売は今年度から新規取組

※各部門長＝各部門の部課長または支店長

吉田地区(吉田支店)

□環境目標及びその実績

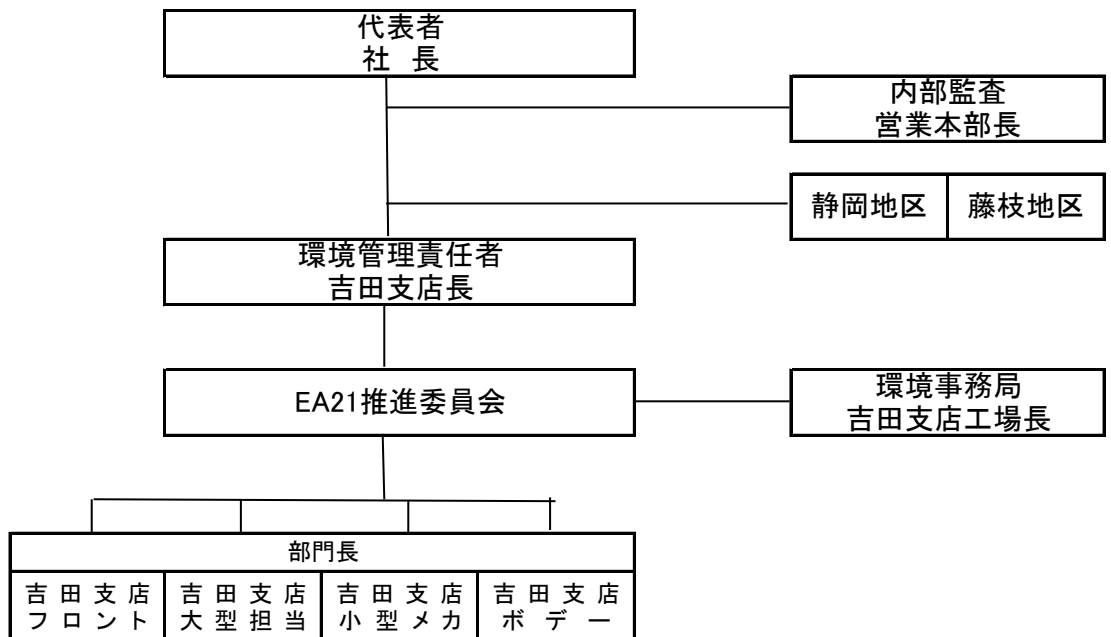
項目		2015年度	2016年度	2017年度		2018年度	2019年度
		(実績) 基準年度	(実績) 新基準	(目標) 基準年度比	(実績) 未達/達成	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 排出係数換算 2014年度0.509	52,651	52,417	51,893	55,071	51,631	51,369
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	27,070	23,071	22,840	21,513	22,725	22,610
			新基準	99.0%	目標達成	98.5%	98.0%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	79,721	75,488	74,733	76,584	74,356	73,979
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
産業廃棄物の削減	(kg/年)	2,204	1,897	1,878	2,059	1,869	1,859
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%
節水	(m ³ /年)	111.0	110.0	108.9	73.0	108.4	107.8
			新基準	99.0%	目標達成	98.5%	98.0%
環境配慮の整備・製品の販売促進 E C Oバッテリー	(個/年)		16	24	35	26	27
			新基準	150.0%	目標達成	160.0%	170.0%
グリーン購入	(千円)	3,088	1,818	1,836	1,990	1,854	1,873
			新基準	101.0%	目標達成	102.0%	103.0%
化学物質の適正管理	(kg/年)	574.6	582.4	576.6	707.8	573.7	570.8
			新基準	99.0%	目標未達	98.5%	98.0%

(注) 二酸化炭素にLPG, 灯油は入っていません。

大型整備需要増に伴う電気使用量と産業廃棄物排出量の増加となる。産業廃棄物においては分別回収と部品の再利用による削減を図るも抑制することができず。静岡支店同様作業内容の変化による増加は避けることができないが、次年度も取組を継続し抑制を図っていく。燃料削減においてはエコカーの導入により前年同様目標達成することができた。水使用量削減においても節水に対する意識が定着しつつあり目標達成。ECOバッテリーの拡販・グリーン購入においては前年度課題であったお客様への提案スキルの向上が結果へとつながった。次年度も継続的取組していく。化学物質の使用量においては目標達成。要因としてお客様指定塗料による大型車両の全塗装やシャン塗装等が増えたことが挙げられる。次年度は仕入れ業者や作業担当者を交えエコ塗料などの代替品を探しお客様の提案、理解のもと塗料の切替えを進めていく。

東海自動車工業株式会社 環境経営システム組織図

吉田地区(吉田支店)



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を承認。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を準備。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告・ ・環境活動レポートの確認。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

口環境活動の取り組み計画と評価

吉田地区（吉田支店）

取り組み計画	次年度取組(継続=○取止め=×)	項目別 担当 責 任者	評価(結果と次年度の取り組み内容)
電力の削減			目標未達
・室内エアコンは、夏28℃、冬20℃を原則とする	○	・各部門長	目標未達、対前年比売上105%と売上増加による影響が大きい。取組に関する意識は向上している。基本的取組は継続し、また全支店共通の標準作業手順を基に作業効率の向上を図ると共に工程管理精度を高める為フロントと作業者との情報共有を密にし連携強化を図る。
・電気器具の買換時には省エネタイプの機器の導入	○	・各部門長	
・クールビズ・ウオームビズ運動(9月通年輕装化に変更)	○	・各部門長	
・昼休みや未使用時の消灯の徹底	○	・各部門長	
・「節電」ステッカーによる節電意識の醸成	○	・各部門長	
・作業手順に標準化による作業効率向上	○	・吉田支店工場長	
・工程管理精度の向上(受入～納車まで一貫管理)	○	・吉田支店支店長	
自動車燃料の削減			目標達成
・徹底したメンテナンスの実施と最適な部品選択による車両性能の維持・向上	○	・吉田支店フロント	今年度は安全運転への意識付けの為、部門長などに事故事例の報告や対応策など継続的に伝えるなどの取組をしてきたこととエコカーへの差替えを計画どおり実施してきた結果、目標を達成することができた。次年度も継続的に指導・啓蒙活動をしていく。
・燃費計測実績を基に数値が低い営業車両から差替えを実施→エコカー導入	○	・吉田支店フロント	
・エコドライブへの取組み継続 冷暖房の控え目使用、急加速・急発進の防止	○	・吉田支店フロント	
産業廃棄物の削減			目標未達
・産廃物の削減、再使用、再生資源(分別)3R推進	○	・吉田支店ポディー	課題の再利用(社外への対応も含めて)推進に向けての取組をしてきた結果、前年度は目標を達成することができ今年度も継続的取組をしてきたが目標未達。要因として売上対前年比105%と増加、特に大型整備増に伴う影響が大きい。作業増加に伴う増加は止む無いが少しでも増加を抑える取組としては効果的である分別処理による再資源化を次年度も継続推進していく。
・会議資料等の削減	○	・吉田支店ポディー	
・分別による古紙の回収	○	・吉田支店ポディー	
節水			目標達成
・洗車・工場清掃時に使用する水の節約	○	・吉田支店大型担当	洗車時の節水など従業員の取組姿勢の向上は図られている。前年度設備の不具合により目標未達となり今年度は漏水対策として水量計等の自主検査をして来たこともあり大きな漏水被害を受けず目標達成することができた。基本的取組の継続と漏水対策も次年度継続していく。
・漏水防止策の実施 (水量計を確認し異常時の早期対応を図る)	○	・吉田支店大型担当	
ECOバッテリーの販売			目標達成
・新商品講習会への参加、販売力の強化	○	・吉田支店小型メカ	パンフレットを作成するなど販売促進に努めている。メーカー等の宣伝効果もあり、お客様の意識の中で「ちゃんと買い」と言う意識が根付きつつある。お客様の愛車の性能維持・燃費向上に伴う環境改善にも効果がある商品とし推奨販売していく。
・販売ツールの活用	○	・吉田支店小型メカ	
・車検点検入庫時推奨販売	○	・吉田支店小型メカ	
グリーン購入			目標達成
・リサイクル商品カタログの活用	○	・吉田支店フロント	前年度は再生部品活用推奨・提案が不十分で目標未達となる。課題として提案技量に欠けている点が挙げられた。対策として、お客様の了解のもと再生部品の取扱となることから、販促ツールの拡充と商品知識の習得による推奨販売のスキルを向上していくこととした。問題意識をもって取組んできた結果、目標を達成することができた。次年度も継続していく。
・優良品販売時に商品説明の徹底 (正しい商品知識を習得し良品を手配装着することで、商品に対する信頼性の向上を図る)	○	・吉田支店フロント	
化学物質の適正管理			目標未達
・PRTR法の遵守、化学物質の使用量削減	○	・吉田支店支店長	前年度未達要因(課題)としてお客様の理解が得られない、代替商品がない、などの課題が挙げられた。対策として国内外の塗料メーカーから代替品を探す。また、お客様への理解を得られるよう作業者の健康への影響と作業環境の改善が目的であることを前面に出し、次年度も引き続き交渉することとした。またコントロールバンディングシートを活用してリスクアセスメントへの取組・特定化学物質の使用量削減を図っていく。
・水性塗料又はエコ塗料の導入・切替え	○	・吉田支店支店長	

※ECOバッテリーの推奨販売は今年度から新規取組

※各部門長＝各部門の部課長または支店長

□災害時避難訓練:2017年9月1日実施



(水消火器による消火訓練)

実施後のアンケートから「実際に想定した訓練にしていくべきだ」との意見が多く寄せられた。

・まだ、安否確認システムが正しく使えない者がいる。安否確認訓練を繰り返し、安否登録方法を覚え込ませること、アドレス登録の徹底と通信エラーの解消が必要。

・今回、施設等の被害は無しとしたが、想定される被害は見込んで実施した方が良い。(「吉田で避難勧告が出たため、避難する。」とか、「車両に挟まれ心配停止者が出た為、AEDにて救命措置をとる。」など)

・次回は8時の安否メール発信＝地震発生として訓練しても良い。出勤した者、通勤途中の者などが混在する中で対策本部を設置してみるのも訓練。安否確認だけでも8時から開始した方が良い。 Etc.

今回多数寄せられたアンケート結果を踏まえ、次回の防災訓練計画を策定し、より実践に役立つ訓練につなげていきたい。

□活力ある職場づくりセミナー:2017年9月～10月



全員参加の下、環境経営活動に取り組む姿勢・体制を構築することを目的として、2ヶ月間に渡り計7回に分け、104名の一般職、管理職を対象として開催。普段接触がない、薄い関係にある従業員同士の交流により各々が感じることや、考えていることなどの情報交換の場となり、各々の立場で何をすべきか、個々が目的を持って行動することの大切さ、全ての従業員が歯車となり全員参加で職場環境を変えていくことの重要性を学ぶ。

□環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

主な適用法規等	該当する活動	遵守状況
自動車リサイクル法	使用済み自動車の再資源化に関する法律	遵守
	・フロン回収報告書の確認	
高圧ガス保安法	フロン回収用ボンベの容器再検査	遵守
	・ボンベの現物確認及び検査証確認	
道路運送車両法	保安基準への適合	遵守
	・車検記録簿の記入及び内容確認	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出適正処理	遵守
	・廃棄物処理業者との契約書及び許可書確認	
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の確認	
消防法	消火設備の設置、維持管理、危険物の取扱と保管	遵守
	・防災通報訓練の実施確認	
	・消防設備の定期点検確認	
水質汚濁防止法	自動式車両洗浄装置	遵守
	・既届出書の確認	
	・油水分離槽の定期点検確認	
浄化槽法	浄化槽の適正使用、定期的な維持管理	遵守
	・浄化槽定期点検確認	
騒音規制法	規制基準の遵守、特定施設として届出	遵守
	・既届出書の確認	
振動規制法	規制基準の遵守、特定施設として届出	遵守
	・既届出書の確認	
労働安全衛生法	塗装ブース、集塵装置などの設置届出	遵守
	・労働基準監督署への届出書確認	
	・健康診断実施状況及び結果表の届出書確認	
フロン排出抑制法	フロン機器「使用時」のフロン漏えい防止措置（業務用冷房空調機）	遵守
	・簡易点検（3ヶ月に一度以上）	
	・定期点検（3年に1回以上）※定格出力7.5KW以上	
		該当機種無

環境関連法規制等の遵守状況の評価（2017年2月実施、内部監査人・環境管理責任者他による）の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

行動指針として、本来事業の改善が省エネ化や産業廃棄物の削減に、延いては環境改善に繋げることを基本とし、環境に優しい整備工場、「お客様に信頼され、選ばれる車の総合サービス会社」となることを目指している。環境活動を単なる環境管理に留まらず、経営に直結する活動とすることで、事業における課題やチャンスを見出すものとする。また各々が率先して取組む姿勢を持ち行動できる企業風土づくりを目標とし、人財づくりに注力し組織体制の確立、戦略立案へとつなげて来た。今年度新たな視点で考え本来業務である整備業の更なる改善を図るべく「業務改善プロジェクトチーム」を立ち上げ活動してきた。成果として作業手順の見直し効率化を図り総労働時間の短縮を図ることができた。次年度も継続して環境経営活動において活動の見える化を図り、評価改善が図れるよう具体的な数値目標の設定と取組手段の見直しを図るよう指示した。

（代表取締役 長野 高幸）